

宮古木曜会合唱団

第**41**回定期演奏会

令和6年**3**月**17**^日日

14時開演（13時30分開場）

宮古市民文化会館 大ホール



御挨拶

宮古木曜会合唱団団長 川原田隆司



皆様、本日は宮古木曜会合唱団第41回定期演奏会によろこそいらっしやいました。

昭和41年（1966年）結成から58年間、当団は古今東西の歌を演奏し続けてまいりました。「古今東西」・・・、時空を超え、その時代、その国の人々に思いを馳せ、いろいろな文化に触れる楽しみを味わえるもの、その一つが音楽です。

昨年9月22日、ダークダックスの最後のメンバー、遠山一さん（通称ゾウさん）が亡くられました。まだ山田線に蒸気機関車が走っていた昭和30年代、4人は宮古小学校体育館でロシア民謡を歌い、コサックダンスで場内を盛り上げてくれ

ました。

あの頃世間のコーラス熱は高く、各小学校でPTAコーラスが活躍し、宮古高校、商業高校、水産高校それぞれに合唱部があり、年に1度の宮古市主催の音楽の夕べでは子供から大人まで一堂に会し、家族的雰囲気の中で音楽を楽しんだような記憶があります。

今、岩手の合唱界は小中高揃って全国コンクールに名を轟かせ、空前の快挙に県民は湧いています。しかしその一方で、コンクールの成績はともかくとして、あの頃高校、社会人に広がっていたコーラスの輪が、今どんどん萎んでいっているように感じられ（特にわれら沿岸部）、とても寂しく残念でなりません。これからの宮古の合唱が盛んになるよう是非若い人に入ってきてほしい！合唱という絨毯に乗って古今東西の時空の旅を御一緒できますよう切に願っています。

それでは今回も「アブラカダブラ」・・・皆様ごゆっくり御鑑賞ください。

プロフィール

指揮 佐々木 幹雄（ささき みきお）



岩手県立水沢高等学校、岩手大学教育学部卒業。岩手県教育委員会による現職派遣にて同大学院修了（音楽教育）。高校在学中より合唱指揮を始め、岩手大学在学中は1年次に母高校音楽部を指揮し定期演奏会のほか全日本合唱コンクール東北大会にも出場、2・3年次に岩手大学合唱団のチーフ・コンダクターを2期つとめ、林光や三善晃の合唱曲の県内初演や青島広志の新曲の初演に携わりもしている。声楽、宗教音楽を佐々木正利氏に、指揮を故佐藤功太郎、故中村伸一郎の各氏に学ぶ。第3回仙台バッハアカデミー（1988年）ではヘルムート・リリング氏の指揮マスタークラスを修了。

1990年代より矢巾町、旧水沢市、旧胆沢町、盛岡市、宮古市にてベートーヴェン作曲「交響曲第9番」や奥州市文化会館では市民オペラ「ラ・ボエーム」「トスカ」（合唱指揮：及川貢）や「岩崎宏美・良美ふれあいコンサート」の合唱指導、盛岡市民文化ホールでは「スペシャル・ガラコンサート」及び仙台フィルやウクライナ国立フィルの「第九」演奏会等の特別合唱団コンサートマスター、また各地市民文化祭等の参加者合同演奏を指揮したりするなど県内各地域に根ざした幅広いジャンルの音楽活動を展開している。グルッペ・ベッヒライン演奏会（盛岡市）ではC.モンテヴェルディ、J.S.バッハ、F.メンデルスゾーン、W.A.モーツァルトら作曲の宗教曲を指揮し好評を博す。

合唱・アンサンブル活動としては、国内外の世界的な指揮者やオーケストラとリハーサルや本番のステージを共にして生の音楽や音楽づくりを体験するのみならず、国内だけでなくドイツ、フランス、台湾への計十数回にわたる演奏旅行等では、声楽家であり合唱指導者である佐々木正利氏のもと、コンサートマスターやステージマネージャーとしても活躍している。

宮古木曜会合唱団には2012年に宮古市立千徳小学校に赴任したのを機に参加し、第31回定期演奏会（2013年）から11年間指導に携わり、宗教音楽や邦人作品など幅広く手がけ、定期演奏会のほか市民文化祭などでも演奏している。

かつては飯岡婦人コーラス（旧都南村）、おたまじゃくしと遊ぶ会（岩泉町）、奥州市民Zフィルハーモニー合唱団、現在は宮古木曜会合唱団（宮古市）、女声合唱団アンサンブル・コンフォーク（奥州市）の各指揮者の他、県内各地の高校音楽部の指導にあたりたり高知、東京、岡山、仙台、盛岡などのドイツ・バロック音楽の演奏会やCDの楽曲解説を手がけたりもしている。また、合唱音楽研究会奥州を主宰し「モーツァルト作曲《レクイエム》全曲演奏会」（4月5日、盛岡市民文化ホールにて、混声合唱団北声会と共催）の指揮も予定されている。グルッペ・ベッヒライン、熊友会ヴォーカル・アンサンブル、日本音楽表現学会、日本音楽教育学会、日本音楽知覚認知学会、日本声楽発声学会の各会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのコンサートマスター。奥州市立常盤小学校教諭（9年目）。盛岡市在住。

指揮／ピアノ／オルガン 佐々木 駿（ささき しゅん）



岩手県立久慈高等学校、岩手大学教育学部音楽科卒業。

大学在学時に岩手大学合唱団のチーフ・コンダクターを務める。

現在は高等学校音楽科教諭として音楽教育に従事する傍ら、岩手県内を中心に合唱指揮やオペラ、作曲、アンサンブルピアニスト等の音楽活動に取り組んでいる。

オペラではこれまでに仙台オペラ協会「魔笛」モノスタトス役、久慈市民参加型オペラ「椿姫」ジュゼッペ役を演じた他、熊友会ヴォーカル・アンサンブルのメンバーとして秋田アトリオンホール「こうもり」、仙台フィルハーモニー管弦楽団「蝶々夫人」等の合唱に参加した。

作曲活動としては、第32回TIAA全日本作曲家コンクール重唱・合唱部門審査員賞（最高位）、第6回K作曲コンクール第3位などを受賞した他、「虹の町で歌おう（しずくいし少年少女合唱団委嘱）」「久慈小学校150周年記念歌 久慈小から未来へ（久慈市立久慈小学校委嘱）」等作曲している。

アンサンブルピアニストとしては、県内の合唱団、声楽・器楽奏者等と多数共演している。

声楽を佐々木まり子、佐々木正利の各氏に、ピアノを片山美也、重野和彦の各氏に師事。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、熊友会ヴォーカル・アンサンブル各会員。第13回JCAユースクワイアテノールメンバー。

現在、宮古木曜会合唱団指揮者、三陸混声合唱団うみねこ代表、岩手県立宮古高等学校教諭。

ピアノ 佐藤 南美（さとう みなみ）



岩手県立宮古高等学校、山形大学地域教育文化学部地域教育文化学科音楽芸術コース卒業。同大学院修了。これまでに大石祥之、三輪郁の各氏に師事。

第72回岩手県芸術祭ピアノ部門芸術祭賞受賞。第3回Kピアノコンチェルトコンクール入選。第4回東北新人演奏会出演。

朗読 榎本 倫子（えのもと ともこ）



宮古市出身・在住。1995年からフリーランスの司会者・アナウンサー・ナレーターとして活動。

これまでに市内外にて、結婚披露宴、各種イベント、コンサート、自治体主催の記念式典等、1,500本余の司会を担当。

また、2004年から現在まで、話し方や接遇コミュニケーション、交流分析（心理学）の研修会講師としても、自治体、企業、団体、学校等の依頼を受けて活動中。

長年、アナウンススキルアップの一環として取り組んできた朗読を自らのライフワークと捉え、演奏家とのコラボや朗読劇のステージに立つと共に、東日本大震災直後の支援活動を通じて出会い、自身が癒やされた物語「われ様のどんぐり」を“声”で多くの方へ届けたいという想いから2021年に朗読CDを制作。その後、オーディオブックナレーターを経験。現在、“温かい声のシャワーを浴びて心身を元気に！”をモットーに宮古市山口公民館で活動中の朗読サークル燦燦の講師を務めている。

プログラム

第Ⅰ部

指揮／佐々木幹雄 ピアノ／佐々木駿

前を向いて、生きてゆく

1. 聞こえる 作詞／岩間芳樹 作曲／新実徳英
2. ハナミズキ 作詞／一青窈 作曲／マシコタツロウ
3. 名づけられた葉 作詞／新川和江 作曲／飯沼信義
4. 前へ 作詞／佐藤賢太郎 作曲／佐藤賢太郎
5. 群青 作詞／福島県南相馬市立小高中学校 平成24年度卒業生（構成・小田美樹）
作曲／小田美樹 編曲／信長貴富

第Ⅱ部

指揮／佐々木幹雄 ピアノ／佐藤南美 オルガン／佐々木駿

ハーモニーの歴史を辿って ～ルネサンスから近代へ～

1. パレストリーナ (Giovanni Pierluigi da Palestrina 1525-1594) 作曲
《Heu mihi, Domine (主よ、救いたまえ)》
2. バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) 作曲
《Kyrie eleison (主よ、憐れみたまえ)》 《ミサ曲 へ長調》(BWV233)より第1曲
3. モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart 1756-1791) 作曲
《Laudate Dominum (主をほめたたえます)》 《ヴェスペレ (証聖者の盛儀晩歌)K.339》より第5曲
4. グリーグ (Edvard Hagerup Grieg 1843-1907) 作曲
《Ave, maris stella (幸あれ、海の星)》

第Ⅲ部

指揮／佐々木駿 ピアノ／佐藤南美 朗読／榎本倫子

混声合唱のための組曲「蔵王」

作詞／尾崎左永子 作曲／佐藤眞

1. 蔵王讃歌
2. 投げよう林檎を
3. 苔の花
4. どっこ沼
5. おはなし
6. 雪むすめ
7. 吹雪
8. 樹氷林
9. 早春

フィナーレ

指揮／佐々木駿 ピアノ／佐藤南美

風が凧いだら

作詞／金森舞 作曲／及川尚樹 編曲／佐々木駿

第 I 部 楽曲解説

前を向いて、生きてゆく

世界各地で今現在も命の安全すらままならない辛い思いをしておられる方々へ。
東日本大震災や令和6年能登半島地震で亡くなられた方、今なお行方不明の方、そして、残された方々へ。
第1部は、様々な過去、そして現在を生きるすべての方々へ向けた、合唱曲「前へ」を物語の中心に置いたプログラムです。

以下に「前へ」の作詞作曲者である佐藤賢太郎さんのメッセージを添えます。

人生の中で、立ち止まらざるをえない時があります。流れる時間や音楽から取り残され、自分の心までも止まってしまったかのように感じる時があります。そんな心がまた動きはじめるように、という願いをこめて、この合唱曲「前へ」をつくりました。「過去を見つめ、今を感じ、そしてもう一度未来へ向かう」ということ。そうやって、また人生という道を歩んでいく皆様の心に響く音楽であることを祈ります。

1. 聞こえる

世界中から聞こえてくる情景（天安門事件、ルーマニア革命、原油流出事故、ベルリンの壁崩壊、森林破壊など・・・）を前にして、自分が何もできないことに対していらだちを覚え、葛藤する若者の姿が描かれています。音楽は紙芝居のように場面ごとに転調、テンポや曲調の変化を繰り返し、目まぐるしくドラマティックに展開されます。

平成3年第58回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲であり、コンクール課題曲としては比較の珍しく、コンクール翌年から現在まで広く歌われ続けています。

2. ハナミズキ

9.11アメリカ同時多発テロ発生時、ニューヨークにいた友人からのメールをきっかけに作詞されたこの曲は、当初「テロ」「散弾銃」といった言葉が使われ、一青窈さんいわく「挑戦的な詞」であったといえます。その詞が最終的に「君と好きな人が百年続きますように」の言葉にたどり着いたことに、作詞者ご本人も不思議に思っているそうです。

2004年に作曲されてから20年、今も広く親しまれている「ハナミズキ」、今回は2015年に放送されたドラマ「表参道高校合唱部！」で歌われた編曲でお送りします。

3. 名づけられた葉

中学校の教科書に載っている詩「名づけられた葉」を合唱曲にした作品です。短調の和音を力強く奏でるピアノの前奏に始まります。この曲は①ポプラの葉について②人間（私）について③作者のメッセージと、3つの場面から成ります。

プログラム構成としては「前へ」を導く一曲。私は、他の誰でもない私であるからこそ、どのように生きるのか考え、日々を前向きに生きていきたい。

「名づけられた葉なのだから 考えなければならない どんなに風が強くとも」

4. 前へ

2011年5月、東日本大震災により日本中が悲しみに暮れているなか、被災地の方々に合唱のエールをおくるべく、カワイ出版による「歌おうNIPPONプロジェクト」が始まりました。「前へ」は、このプロジェクトのために書き下ろされた一曲です。柔らかなピアノの前奏に始まり、合唱が神秘的なハーモニーで応えます。前半は祈りを捧げるような美しいメゾピアノにより音楽が運ばれますが、やがて音楽は大きな流れとなり、「一歩一歩前へ」という確信へ変わっていきます。

5. 群青

東日本大震災にて被害を受けた福島県南相馬市立小高中学校の平成24年度卒業生と、当時の音楽教師の小田美樹先生によってつくられた曲です。震災によって友人を失ってしまった悲しみと、原発事故によって全国に離ればなれになって仲間への想いが込められた一曲です。木曜会が震災以降ずっと歌い繋いできた思い入れのある一曲であり、毎回ステージでこの曲を演奏する時には特別な気持ちになります。

第Ⅱ部 楽曲解説

ハーモニーの歴史を辿って ～ルネサンスから近代へ～

第2部は「ハーモニーの歴史を辿って ～ルネサンスから近代へ～」と題して4曲をお送りします。「ハーモニー」＝「調和」は合唱の基本的な価値と考えられていますが、これは歴史的に形成され変化してきたものなのです。

ヨーロッパの教会音楽の始まりは10世紀頃に成立したグレゴリオ聖歌と呼ばれる単旋律の歌でした。副旋律がないので和音という意味でのハーモニーは形成されません。皆が同じ旋律を合わせて歌い響かせる「ユニゾン」こそが「調和」の具現化・実体化だったのでしょうか。その後時代が進むにつれ音の響き合いや歌詞の理解を求めてたくさんの副旋律がつけられるようになり（中世のトロースやオルガヌムなど）、次第に響きが厚くなると同時に不協和にもなり祈りの言葉が聞き取れなくなっていくます。

1. Heu mihi, Domine

16世紀になりトレント公会議の反宗教改革の潮流を受けて「多声音楽でも歌詞がわかりやすい音楽」「情緒性の弱い、表現に品位のある音楽」をジョヴァンニ・ピエルルイーニ・ダ・パレストリーナ（Giovanni Pierluigi da Palestrina, 1525年～1594年）が実現し、その後の手本となっていきます。本日演奏する《Heu mihi, Domine（主よ、救いたまえ）》はモテットと呼ばれるジャンルの作品です。「我が身の罪を自分ではどうにもできません、主よ、世の終わりの日に私を見捨てず憐んでください。」と、テキスト（歌詞）の句ごとに各パートがテーマ（動機）を歌い継いでいくポリフォニック（対位的）な展開です。それぞれのパートがそれぞれ違うタイミングで動きながらも音程が協和（ハーモニー）し、落ち着いた音楽の中で祈りが教会に響きます。

2. Kyrie eleison

17世紀に活躍したヨハン・ゼバスティアン・バッハ（Johann Sebastian Bach 1685年～1750年）は多くの教会用楽曲（カンタータ）やオルガン曲、器楽合奏曲を作曲したことで有名ですが、それらで用いられている対位法についてはパレストリーナの作品を模範として研究し、編曲してもいます。本日演奏する《Kyrie eleison（主よ、憐れみたまえ）》は《ミサ曲 へ長調》（BWV233）の第1曲です。おそらくヴァイマル時代のカンタータBWV233aを改訂したものと考えられており、4声部の合唱の他に通奏低音と、ドイツ語版「Agnus Dei（神の子羊）」の定旋律を演奏するホルンとオーボエのパートと、計6声部によるポリフォニックな音楽です。第1キリエのテーマが、中間部では転回型となって出現し、第2キリエでは両者が混じった反行フーガとなって歌い継がれます。ポリフォニックながら調性感が明確な音楽です。

3. Laudate Dominum

18世紀に活躍したヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（Wolfgang Amadeus Mozart 1756年～1791年）はオペラや交響曲だけでなく教会音楽もたくさん作りました。本日演奏するのは《ヴェスペレ（証聖者の盛儀晩歌）》K. 339の第5曲《Laudate Dominum（主をほめたたえます）》です。この時代になるとポリフォニックな音楽は難しいものと受け止められ、聴いてわかりやすいホモフォニック（和声的）な音楽が好まれるようになります。主旋律に和音伴奏が音楽的に色付けするスタイルです。この曲はソプラノの独唱で歌われる、順次進行を基調とした優しい主旋律と、後半からハーモニーの変化でそれに厚みを加える4声部の合唱で演奏されます。

4. Ave, maris stella

最後に演奏するのは近代ノルウェーの作曲家エドヴァルド・ハーゲルupp・グリーグ（Edvard Hagerup Grieg 1843年～1907年）の賛歌です。器楽曲や歌曲が有名ですが、教会音楽も作曲しています。《Ave, maris stella（幸あれ、海の星）》は聖母マリアの夕の祈りの中で歌われるもので、本来のテキストは7節までありますが、この楽曲では第1、3、6、7節が使われています。聖母マリアを讃える言葉が無伴奏（ア・カペラ）で歌われます。基本は4声部ですが、部分的には5声部になったり、男声だけ・女声だけの部分でもそれぞれ4声部のハーモニーが作られます。基本的にどのパートでも歌詞は同時に発音されるので、旋律というよりハーモニーに言葉がついているような作風になっています。

ポリフォニーからホモフォニーへの「ハーモニー」の変遷をお楽しみください。

第Ⅲ部 楽曲解説

混声合唱のための組曲「蔵王」

「大地讃頌」でおなじみ、佐藤眞（さとうしん）先生の作品。この組曲は1961年に文部省芸術祭参加作品として、ニッポン放送の依頼を受けて作曲されました。蔵王の四季を歌った全9曲から成る組曲で、当時東京藝大院生でいらした佐藤先生の若々しくエネルギーの溢れる作品です。本日は1991年に出版された〔改訂新版〕でお送りします。

1. 蔵王讃歌

春の蔵王を歌った曲。雄大な蔵王の自然を表現する、力強いフォルテシモから始まります。中間部は下属調へ転調し、暖かな木々や空について暖かいハーモニーで歌われます。

2. 投げよう林檎を

はつらつとした雰囲気曲。新緑の季節、たわわに実るさくらんぼや、藍色に光る山肌など、蔵王の自然も色彩を豊かにします。「投げようリンゴを」は、そんな色とりどりの自然に囲まれてリンゴをさくさくとかじる若者を描いた曲です。天気も良い日なのでしょう。つい「ヤッホー」と言ってしまう。

3. 苔の花

夏の蔵王を歌った曲。1、2曲目と雰囲気は変わり、ゆったりとしたテンポで歌われます。主旋律を担当するソプラノの美しさはもちろん、ピアノによる間奏も絶品です。

4. どっこ沼

蔵王には多数の沼が存在していますが、「どっこ沼」はその中で最も親しまれている沼です。手前は透明、奥にいくに従って次第にエメラルドグリーンへ、グラデーションを描いているのが特徴です。有節歌曲のように、1番から4番まで同じ旋律を繰り返します。

5. おはなし

季節は冬に移り変わります。外は雪がしんと降り、いろりを囲んで、長い冬ごもりが始まります。単調な生活をおじいさんのお話が豊かに彩ります。おじいさん役はバスのソリストにより、孫役は合唱により歌われます。

6. 雪むすめ

「雪むすめ」はおじいさんの話すおはなしの一つ。今度はソプラノのパートソロにより、穏やかに歌われます。アルト、テノール、バスは終始ハミングによるバックコーラスでソプラノを引き立てます。

7. 吹雪

春が近づく中、突如夜に激しい吹雪が降るところを表現した曲です。前の6曲から雰囲気は大きく変わり、激しい前奏に始まり、雄々しい男声合唱が受け継ぎます。

8. 樹氷林

吹雪の後にできた樹氷について歌う曲です。増三和音（ド・ミ・ソ \sharp ）という複雑な響きの和音が多用され、神秘的な雰囲気曲です。今回のポスターやプログラムの表紙は樹氷林をデザインしたものです。

9. 早春

厳しい冬が去り、春のおとずれを歌った曲。軽やかで喜びに満ちた旋律は聴いて楽しい、歌って楽しいまさに名曲です。終盤は「大地讃頌」と同じく高音のロングトーンとピアノのトレモロにより、壮大な終結を迎えます。

第 I 部 歌詞

前を向いて、生きてゆく

1. 聞こえる

鐘が鳴る 鳩が飛びたつ
広場を埋めた群衆の叫びが聞こえる
歌を 歌をください

陽（ひ）が落ちる 油泥の渚
翼なくした海鳥のうめきが聞こえる
空を 空をください

歩み寄る 手に手に花を
歲月こえて壁ごしに「歓喜の歌」が聞こえる
夢を 夢をください

こだまして 木々が倒れる
追われて消えた野の人の悲しい笛が聞こえる
森を 森をください

時代が話しかけている
世界が問いかけている
見えている 聞こえている 感じている
だけど なにもできないこの部屋で
膝（ひざ）を抱いてひとりうずくまっているいらだち
教えてくださいなにができるか
光っている道を心ひらいて歩いていきたい
なにができるか教えてください

2. ハナミズキ

空を押し上げて
手を伸ばす君 五月のこと
どうか来てほしい
水際まで来てほしい
つぼみをあげよう
庭のハナミズキ

薄紅色の可愛い君のね
果てない夢がちゃんと終わりますように
君と好きな人が百年続きますように

夏は暑過ぎて
僕から気持ちは重すぎて
一緒に渡るには
きっと船が沈んじゃう
どうぞゆきなさい
お先にゆきなさい

僕の我慢がいつか実を結び
果てない波がちゃんと止まりますように
君と好きな人が百年続きますように

ひらり蝶々を
追いかけて白い帆を揚げて
母の日になれば
ミズキの葉、贈って下さい。
待たなくてもいいよ
知らなくてもいいよ

薄紅色の可愛い君のね
果てない夢がちゃんと終わりますように
君と好きな人が百年続きますように

僕の我慢がいつか実を結び
果てない波がちゃんと止まりますように
君と好きな人が百年続きますように
君と好きな人が百年続きますように

3. 名づけられた葉

ポプラの木には ポプラの葉
何千何万芽をふいて
緑の小さな手をひろげ
いっしんにひらひらさせても
ひとつひとつのてのひらに
載せられる名はみな同じ

わたしも
いちまいの葉にすぎないけれど
あつい血の樹液をもつ
にんげんの歴史の幹から分かれた小枝に
不安げにしがみついた
おさない葉っぱにすぎないけれど
わたしは呼ばれる
わたしだけの名で 朝に夕に

だからわたし 考えなければならない
誰のまねでもない
葉脈の走らせ方を 刻みのいれ方を
せいっぱい緑をかがやかせて
うつくしく散る法を
名づけられた葉なのだから 考えなければならない
どんなに風がつよくとも

4. 前へ

覚えている
あなたの暖かな手を
覚えている
あなたの優しい声を
覚えている
あなたの真っ直ぐな眼差しと 静かな祈りを

目を閉じれば
あなたと過ごした時のことを
あなたと共に歌ったことを思い出す

音楽の終わりが あなたとの別れではない
音楽がまたよみがえるように
何度でも 何度でも あなたを思い出そう

覚えている
あなたの大切な夢を
覚えている
あなたの明日に向けた笑顔を

あなたとの思い出を胸に
一步一步 前へ
毎日の喜びと悲しみを抱きしめながら
一步一步 前へ

一步一步 前へ

5. 群青

ああ あの町で生まれて
君と出会い
たくさんの思い抱いて
一緒に時間(とき)を過ごしたね
今 旅立つ日
見える景色は違っても
遠い場所で 君も同じ空
きっと見上げてるはず

「またね」と 手を振るけど
明日も会えるのかな
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火
いつでも君がいたね
あたりまえが 幸せと知った
自転車をこいで 君と行った海
鮮やかな記憶が
目を閉じれば 群青に染まる

あれから2年の日が
僕らの中を過ぎて
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声
響け 遠くまでも
あの空の彼方へも
大切な すべてに届け
涙のあとにも 見上げた夜空に
希望が光ってるよ
僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう
あの町で会おう
僕らの約束は
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・

第Ⅱ部 歌詞／対訳

ハーモニーの歴史を辿って ～ルネサンスから近代へ～

1. Heu mihi, Domine,

Heu mihi, Domine,
quia peccavi nimis in vita mea:
quid faciam miser?
ubi fugiam, nisi ad te Deus meus?
Miserere mei, dum veneris in novissimo die.

2. Kyrie eleison

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

3. Laudate Dominum

Laudate Dominum omnes gentes:
laudate eum omnes populi:
Quoniam confirmata est
super nos misericordia ejus:
et veritas Domini manet in aeternum.
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio,
et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum.
Amen.

1. 主よ、救いたまえ

あゝ、主よ私を救いたまえ。
私の生涯にはたくさんの罪がありますので、
憐な私はどうしたらよいのでしょうか。
神の御側を除いて、何処に逃げたらよいのでしょうか。
あなたが世の終りの時に、地上に来られるとき、私を見捨てずに憐んで下さい。

2. 主よ、憐れみたまえ

主よ、憐れみたまえ
キリストよ、憐れみたまえ
主よ、憐れみたまえ

3. 主をほめたたえます

すべての国々よ、主をほめたたえます
諸国民よ、彼をほめたたえます
確認されたので
彼の慈悲は私たちにあります
そして主の真実は永遠に残ります
父と子に栄光あれ そして聖霊に
初めにあったように
今も、そしてこれからも
そして永遠に
アーメン

4. Ave, maris stella

Ave, maris stella,
Dei mater alma,
Atque semper virgo,
Felix coeli porta.

Solve vincla reis;
Profer lumen caecis,
Mala nostra pelle,
Bona cuncta posce.

Vitam praesta puram,
Iter para tutum,
Ut, videntes Jesum,
Semper collaetemur.

Sit laus Deo Patri,
Summo Christo decus,
Spiritus sancto;
Tribus honor unus. Amen!

4. 幸あれ、海の星

幸あれ、海の星、
うるわしい神の母、
永遠の乙女、
幸せな 天の門。

罪人の枷を解き放ってください、
盲人たちに 光を注いでください、
わたしたちの罪を取り除いてください、
すべての恵みを 祈り求めてください。

わたしたちの生涯を 清めてください、
行く手を 安らかに ととのえてください、
わたしたち皆が 永遠に イエスを見つめて、
ともに喜ぶことが できますように。

神である 父に賛美、
至高のキリストと 聖霊とに 称賛、
誉れは 一にして三位の神に、
ひとしく ありますように アーメン。

第Ⅲ部 歌詞 混声合唱のための組曲「蔵王」

1. 蔵王讃歌

万緑（ばんりょく）充（み）てる 蔵王
からまつのは
いまぞ花の季（とき）
はるかに
あゝ峰は遠く
山の春は
いま去りゆく

白樺の
若葉揺（ゆ）れて
はれわたる
山の空

ささやくは
山の言葉か
森の上に
昼の月

あゝ蔵王 蔵王の山
みちのくの
空にそびえて
蔵王うるわし

麓いちめんの菜の花が終り、やがて青葉。つやつやとしたさくらんぼの実が、枝もたわわになる頃、蔵王の山肌は藍色に、きびしい光を放ち始める。夏だ。峰々をめざして、都会の若者たちがやってくる。

雲を仰いで、さくさくと囓むリンゴに、若者の歯が皓い。

2. 投げよう林檎を

投げよう リンゴを 雲の上
ゆこうよ 朝焼 照るかなた
うたおう 希望のうた
ヤッホッホ リラホ
ふみしめてゆく草に
朝露 かがやく
ヤッホッホッホッ
ヤッホッホッホッ
朝露 かがやく

蒼（あお）い峰々 雲の海
光さやかに 風香（かお）る
うたおう 希望のうた
ヤッホッホ リラホ
ふみしめてゆく岩に
夏の日 かがやく
ヤッホッホッホッ
ヤッホッホッホッ
夏の日 かがやく

投げよう リンゴを 雲の上
雲からこぼれる 朝の日に
うたおう 希望のうた
ヤッホッホ リラホ
ふみしめてゆく山原
湖 かがやく
ヤッホッホッホッ
ヤッホッホッホッ
湖 かがやく

高原は、晩春から初夏を迎えて、
いっせいに花の世界となる。隠花植
物の青苔のたぐいまでが、点々と、
ほのじろいかすかな花を咲かせたよ
うに見える。しずかな山の夏を迎え
る “苔の花”

3. 苔の花

高原（たかはら）の
木洩日ゆれる岩
はかなく咲ける苔の花

笹原の
山風光る川
やさしく咲ける苔の花

山より流れて
ここにせゝらぐ
水のしぶきにぬれる花

冷き
夏の山原に
咲きて過ぎゆく苔の花

朝霧夕霧
若葉とざして
霧の流れにゆれる花

さみしき
夏の山原に
咲きて過ぎゆく苔の花

顔をうつせば、そのまゝ吸い込ま
れそうな、明澄な山の沼、孤独な沼、
静寂な沼。それら数多い蔵王の沼の
中で、最も親しまれている名、それ
は“どっこ沼”。

4. どっこ沼

蔵王 どっこ沼
とろり光れば
水の中なる夏空に
北をさして 雲うごく
まつぼっくり
ころがれ
沼の中に
沈め
とろり光れば 雲うごく

蔵王 どっこ沼
とろり光れば
水は七色 朝夕に
光かえて 雲うごく
まつぼっくり
ころがれ
沼の中に
沈め
とろり光れば 雲うごく

蔵王 どっこ沼
とろり光れば
光の中なる波の輪に
小舟浮かべて 雲うごく
まつぼっくり
ころがれ
沼の中に
沈め
とろり光れば 雲うごく

蔵王 どっこ沼
とろり光れば
水の中なる朝空に
虹は消えて 雲うごく
まつぼっくり
ころがれ
沼の中に
沈め
とろり光れば 雲うごく

沼の上に音もなく朴の葉が散り、
“こけもも”のつぶらな実が熟れる
と、もう秋だ。
山巔から吹きおろす風は心にしみ
わたり、すゝきの銀の穂は、逆光の
中にひたすらにそよいでいる。
やがて蔵王の頂に初雪がやってく
る。そしてふもとの村にもまた。
いろいろをかこんで、長い冬ごもり
がはじまる。その単調な生活を豊か
にいろどるもの、それは“おはなし”。

5. おはなし

粉雪小雪ふりしきる
北風さむい雪のよる

孫 “じいちゃん
おはなし”
爺 “なかなか
縄がなえるまで”
孫 “じいちゃん おはなし”
爺 “なかなか”
孫 “じいちゃん おはなし”
爺 “なかなか”
孫 “じいちゃんおはなし おはなし”
爺 “とんとむかしあつたげな
あるとこさ
おっきなお倉があつたけど・・・”
孫 “おもしろい おもしろい
こだいおもしろいはなし
きいたことござらん”
爺 “その倉さ
米いっぱい積まっていて
ねずみがいっぱいきいたつけど・・・”
孫 “おもしろい おもしろい
こだいおもしろいはなし
きいたことござらん”
爺 “そのねずみがサ
子を産み 子を産み
何万匹になつたけど・・・”

孫 “おもしろい おもしろい
子を産み 子を産み
何万匹になったけど・・・”

爺 “その子ねずみが
壁のこわれたところから
チョロリ チョロ チョロ
出て来たっけど・・・”

孫 “おもしろい おもしろい
チョロリ チョロ チョロ
チョロ チョロリ”

爺 “また一匹”
孫 “チョロリ チョロ チョロ
チョロ チョロリ”

爺 “また一匹”
孫 “チョロリ チョロ チョロ
チョロ チョロリ”

孫 “チョロリ チョロ チョロ
チョロ チョロ
チョロ チョロ
こだいおもしろいはなし
きいたことござらん”

いろりのなかの松笠が
まっかにもえる冬の夜

古くからかたりつがれて来た民話
——東北は民話の宝庫だ。これもそ
の美しい宝石のひとつ。

6. 雪むすめ

雪がやめば
あおい月夜
流れる星さえ
しずかに消えて

雪がやめば
あおい月夜
つめたい雪の
花咲く森よ。

坊やおやすみ
チロロン チロロン
坊やおやすみ
ゆめもまどかに
雪のお城の窓をとざして

雪がやめば
あおい月夜
冬の夜ふけに
消える雪むすめ

雪の雫（しずく）か
チロロン チロロン
ふもとのわらびも
もうじきひらく
はるのいぶきはいつしか萌（も）えて

雪がやめば
あおい月夜
冬の夜ふけに
消える雪むすめ

冷い白銀の世界の遠くから、もう
春のいぶきがそこまでちかづいてい
る——と思うまもなく、山は突如は
げしい吹雪におそわれる。冬将軍の
厳しい剣が、木々を、大地を、麓の
村を、容赦もなく打ちのめすのだ。
全山を蔽って荒れる。“吹雪”。

7. 吹雪

風すさび
雪は狂う
白き夜の
まぼろし

梢（こずえ）吼え
怒り叫ぶ
吹雪の山

やさしき春の
光を待ちて
ふもとの村に
雪はひびく

風すさび
雪は狂う
怒り叫ぶ吹雪

吹けよ 嵐
荒れよ 吹雪
すべてのものを凍らせ

あゝ
吹雪の山
山は叫ぶ
まぼろし

すさまじい吹雪の一夜が明けると、
すばらしい新雪の朝だ。清らかな雪
の面は、おのづから青い翳りをもつ。
その上に、点々と続けもの足跡。
それを追うように、スキーヤーは新
しいシュプールのあとを刻みながら、
樹氷の林に迷い込む。蔵王の樹氷
は、一夜のうちに、むくむくと立ち
上がった巨大な白いモンスターの群
だ。抜けるほど青い空、強烈な雪の
反射。

爽快な一日が終り、樹氷林の上には、
やがて無気味なほど静かな夜が
訪れる。

8. 樹氷林

山は眠り
谿（たに）は凍り
銀河は冴えたり

青い 青い
静寂（しじま）の底（そこ）
星は
冷く光りぬ

樹氷の群は
うごめく
うごめく
うごめく
うごめく
白き魔物の
群はうごめく

夜の宴（うたげ）
たゝえん
あやしき
樹氷林

山は眠り
谿は凍り
星は冷く光りぬ
樹氷の群・・・・・・・・

きびしい冬は去った。

厚い雪の底で、かすかに雪のとける音がする。ささやかに、小川が流れはじめたのだ。日だまりの黒土に、ふきのとうの花が黄色の、うすい花びらを開く。遠くひびいてくるなだれの音。

だが、それさえ遅い北国の春の、かがやかしい序曲ともきこえるのだ

9. 早春

朝の光山にみち
雲は明るく浮かびたる
そよ風わたり
白い山肌光りかがやく

枝から枝へ鳥はとび交（か）い
春よ春よ山の春よ
小川のせゝらぎ音もかるく
あけゆく山にこだまする

鳥はやさしくよび交わしゆく
あけゆく蔵王に雪はかがやく
讃えよ春を
讃えよ蔵王
蔵王の山に春は来たりぬ
あゝ蔵王 蔵王の山・・・・・・・・



フィナーレ 歌詞

風が凧いだら 作詞／金森舞 作曲／及川尚樹

昨日までのことを
思い出すのはもうやめよう
世界の音が
聞こえなくなるほど
悲しみわめいても
過ぎた明日は
振り返りもしないから
向かうべき場所がある

明日からのことを
考えるのはもうやめよう
未来の声に
おびえ後ずさり
逃げだそうとしても
私の夜は
もう誰かの朝だから
目指すべき場所がある

風が凧いだら・・・

作詞／作曲者からのメッセージ♪

作詞／金森舞

こんにちは。私は10年前に宮古高校を卒業した音楽部のOGです。

2011年3月、当時中学校の卒業式を控えていた頃に東日本大震災が発生しました。自宅が全壊し、かけがえのない親族が犠牲となりました。今を生きることには精一杯で悲しみや恐怖と向き合う時間が十分にとれないまま高校に入学しましたが、学校で出会った素敵な友人と尊敬する先生方、そして家族の支えのおかげで少しずつ何気ない日常を取り戻すことができました。それでも夜になれば繰り返し同じ夢を見て眠れない日々でしたが、風が凧いだような真夜中に「そんな自分でも良いのだ」と思えたのは、あの時出会ったすべての方々の温かさがあったからです。

その後様々な想いを音楽の授業で作成した詞に込めたところ、その年の「岩手県作詞作曲コンクール」の作詞部門で最優秀賞をいただき、及川尚樹先生に曲をつけていただいて合唱曲「風が凧いだら」が完成しました。

現在、私は震災の経験から教員を志し、県内の高校で勤務しています。ご縁があり駿先生からお声がけいいただいて本日お招きいただきました。今でもなお後輩のみんなや木曜会の皆様に歌っていただいていることに驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。偶然この場で出会った皆様が、音楽を通してほんの一瞬心が通う奇跡を共有できれば嬉しいです。

作曲／及川尚樹

この詩に出会ったのは2012年です。震災後に宮古高校に赴任したばかりでした。

詩を見た瞬間に「色」が浮かんできました。黒板に書きたいろんな色のチョークを素手で混ぜ伸ばして出来たような（ちょっと伝わらないでしょうか・・・個人の感覚です）、マーブル調で淡い丸みを帯びた色です。この曲はまずその「色」を基に描き上げました。

そして、この詩の持つ穏やかな印象と、その背景にあると感じた多くの感情を、ほんのちょっと前向きになれるように、自分なりに音符にしたつもりです。

当時（もちろん今もですが）、宮古高校音楽部はとても素直な心と声を持っていました。その子たちに似合う音楽にしたかった、という記憶があります。大迫力は求めてはおらず、心の隙間にお邪魔させていただくような音楽になればいいな、と思いながら作ったはずです。皆様に、この曲はどう映るでしょうか。

10年以上も眠っていた曲を起こしてくださった駿先生、宮古木曜会の皆様、ありがとうございます。

今見ても、心をつかむ美しい詩だと思うんです。彼女の詩が、木曜会のお力を借りてまた陽の目を見ることができたことが、何より嬉しいです。2024年、多くの苦しみを生み出した始まりとなりました。そんなときに、この曲が近くにありますように。そして、たくさんの風が凧いだ時間が訪れますように。

ご協賛頂いた皆さま

アトム動物病院
伊東産婦人科医院
うみねこ鍼灸接骨院
おおうち消化器内科クリニック
(株)大越電気
大坂建設(株) (2口)
奥脳神経外科クリニック
川原田小児科医院 (2口)
(資)健康堂薬局
後藤医院(山田) (2口)
小成良治商店
(株)小成 リラパークこなりミュージック
(株)坂庄・sakusaku中央通店・花の木通り店
佐藤雅夫クリニック
三陸病院

チャイルドショップZoo
とがし家畜診療所
豊島医院
ナナ動物病院
ネットヨタ岩手(株)宮古店
花館家畜診療所
林整形外科内科医院
美容室じゃまール
(有)福島屋
ふじたファミリークリニック
フラワーショップ花ことば
ホームワンサトウ
みつこ美容室
宮古うみねこ歯科クリニック

ありがとうございました！

出演メンバー

宮古木曜会合唱団

指揮 佐々木幹雄 佐々木駿
ソプラノ 大久保秀子 富樫亮子 吉田真弥子 *大西和子 *佐々木葉奈 *芳賀志歩
アルト 大坂久子 小林弘江 齋藤絹子 鳥居紗季 中島颯希 中村登志江 宮本正子
武藤歩子 村上千賀子
テノール 伊藤大樹 川原田隆司 *千葉行有 *沼田圭一 *舞田寛武
バス 木村茂男 花館充章 武藤秀郷 山内健広 *東海林隆幹

*団友

ステージマネージャー 高玉智晴

宮古高校音楽部

ソプラノ 伊藤優舞 伊藤怜華 北村友香
アルト 皆川彩乃 三上陽楓
バス 石垣奏音

